

アミノ酸研究執筆規程

1. 本学会の学術大会およびシンポジウムで発表する内容については「アミノ酸研究」に掲載する。総説、Addenda、トピックスなども本執筆規程に準ずる。
2. 掲載された論文等の著作権は、日本アミノ酸学会に属する。
3. 学術大会の口頭発表による一般講演の原稿は、5,000 字以内とする。タイトル、著者名、所属、英文タイトル、英文著者名、英文所属、著者連絡先を記載し、原則として発表内容を短い総説としてまとめる。なお、「アミノ酸研究」は査読制度をとっていないので、他誌との二重投稿、無許可の図表の再録のないよう留意する。転載の場合は転載許可書のコピーを提出する。なお、口頭発表における質疑応答も「議論」の項目として掲載する。
4. 学術大会におけるポスター発表による一般講演は、要旨をそのまま掲載する。なお、3.に準じて短い総説とすることもできる。
5. シンポジウムの原稿は、図表等を含み 10,000 ~ 15,000 字程度とする。タイトル、著者名、所属、英文タイトル、英文著者名、英文所属、著者連絡先を記載し、発表内容を総説としてまとめる。質疑応答も「議論」の項目として掲載する。
6. 一般講演（口頭発表）およびシンポジウムの原稿は印刷したものを 1 部と Microsoft Word で編集した原稿の CD を発表当日までに編集幹事に送付するか、あるいは大会当日に大会事務局へ持参する。表も Microsoft Word で編集したものを原則とし CD に含める。図は Microsoft PowerPoint で編集したもの、あるいは PDF ファイルがあれば CD に含めるが、そのまま製版する場合もあるので、必ず別様で提出する。CD には著者名、所属、使用機種名、ソフト名（バージョンを含む）、作成ファイル名とその内容を記載する。
7. 文献は引用順とし、本文の引用箇所の右肩に¹⁾もしくは¹⁻³⁾のように番号をつける。文献の記載例は下記に従う。
 - 1) 必須太郎, 網野早苗 (2006) アミノ酸の分離定量法, *アミノ酸研究* **179**: 23-24.
 - 2) Carroll CC, Fluckey JD, Williams RH, Trappe TA (2005) Human soleus and vastus lateralis muscle protein metabolism with an amino acid infusion. *Am J Physiol*, **288**: E479-E485.

- 3) 東京一郎, 大阪花子 (1999) 小動物のエネルギー代謝測定, 栄養学実験法, 山上順編, 第3巻, pp.201-210, 高輪出版(東京)
- 4) Hoffer JL (1999) Evaluation of the adaptation to protein restriction in humans, *In: Methods for investigation of amino acid and protein metabolism*. El-Khoury AE, ed, pp. 83-102, CRC Press, New York.
8. 動物の種属名はカナ書きとする(ヒト、ラット、ニワトリ、イヌなど)。学名は斜体(イタリック体)で記載する。学術用語は、日本栄養・食糧学会編「英和・和英栄養・食糧用語集」に従う。蛋白質、蛋白、たん白質、たんぱく質などはタンパク質に統一する。
9. 単位の表示、略号は原則として国際単位系(SI)で表示する。
単位の例:L, mL, kg, mg, μ g, ng, mol, mmol, μ mol, mol/L もしくは M, mp, bq, y, mo, d, h, min, s, Mbq, kMq, *Km*, *Vmax*, pH など。
10. アミノ酸の略号は3文字略号を用いる。ただし、タンパク質・ペプチドのアミノ酸配列を示す場合は1文字略号を用いてもよい。
11. 原則として初校のみ著者校正とする。

(2008年8月改正)